（独）家畜改良センターの衛生情報
「NLBC 家畜衛生通信　第 62 号」　令和 8 年 11 月

執筆担当	所在地	畜種	キーワード
十勝牧場 衛生課	北海道 音更町	馬	子馬、重種馬、屈筋腱過伸展 接着装蹄、蹄充填剤

屈筋腱過伸展を呈した重種子馬に対する蹄充填剤(スーパーファスト)を用いた装蹄療法について

・はじめに

家畜改良センター十勝牧場では、重種馬の改良・増殖を目的とし、重種馬(ブルトン種・ペルシュロン種)を約 200 頭ほど繋養しており、毎年 50 頭前後の子馬を生産しています。

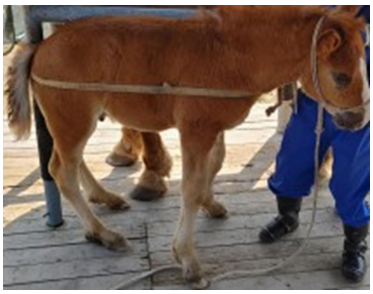
・屈筋腱過伸展の症状を呈する子馬の出生

このような中、2025 年 3 月に出生した子馬 1 頭に出生時から右後肢の屈筋腱過伸展が認められました。屈筋腱過伸展は、新生子馬に見られる、屈筋群の機能的な未熟による下肢の過伸展です。軽度であれば、運動コントロールや削蹄等で矯正することができ、成長に伴い自然治癒することも多いと言われています。当該馬は、2 ヶ月経過しても状態が改善せず、球節の接地による擦過傷、浮尖(蹄尖が浮いてしまう状態)が認められました。このような場合、矯正のために特殊な装蹄をする必要があります。今回の症例では、まず既存の特殊プレートの使用を検討しましたが、蹄の大きさが合わず、装蹄することができませんでした。そこで、蹄充填剤(スーパーファスト)を用いて、蹄後方(蹄踵部)に張り出した特殊プレートを自作し、装蹄を行いました。装蹄後、屈筋腱過伸展の度合いは徐々に改善、最終的には放牧可能な状態まで回復させることができました。

・治療・経過

2025 年 3 月　出生(介助なし)

2025 年 5 月　「球節がゆるいままだ」という稟告で初診



▶初診時(2025 年 5 月中旬)



初診時の症状

＊右後肢の球節が接地し、擦過傷ができてしまっている。

＊蹄踵部に負重し、蹄尖部が浮いてしまっている(浮尖)。

＊ふらふら歩く。

▶2025 年 5 月下旬



球節周辺の擦過傷を防ぎ、関節をサポートするための保護包帯を 2 週間ほど継続

→球節の過伸展および浮尖の改善はいずれも認められなかった

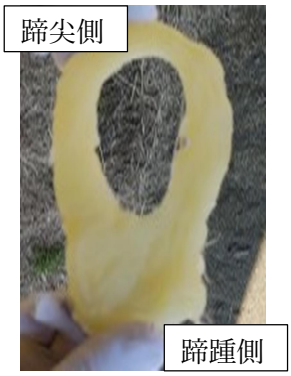
→蹄踵部を延長した既存の特殊プレートを装着し、屈筋腱過伸展の矯正を試みようとしたが、既存のプレートが馬の蹄に対して小さく、フィットしなかった



既存の特殊プレート

用途に合わせて突出部をカットして使用

▶自作プレートの装蹄



○自作の後方張り出しプレート
蹄を型取りしたうえで、その型紙に合わせながら、蹄踵部後方に約 5cm ほど延長したプレートを蹄充填剤で作成



○装蹄の様子
自作したプレートを蹄充填剤により蹄壁に接着させ、装蹄

▶装蹄後



球節の過伸展と浮尖は見られなくなった



球節の保護と特殊プレートの落下を防ぐため、バンテージを巻き、パドックで飼養

▶2025 年 6 月中旬・装蹄開始 2 週間後



わずかに蹄尖は浮いたままだが、球節の接地は認められなくなった

▶2025 年 6 月下旬・装蹄開始 4 週間→装蹄外す

▶2025 年 7 月上旬・装蹄開始 6 週間後(装蹄外して 2 週間経過)



浮尖も改善され、球節の過伸展は矯正された→経過観察

・おわりに

屈筋腱過伸展は、軽度であれば、無処置や削蹄等で治癒する場合が多いですが、今回のような重度の症例では装蹄により矯正する必要があります。その際、特殊蹄鉄の代用品として、木製ブロックや市販の矯正プレートが一般に用いられてきました。しかし、今回の例のように、大きさの面から重種子馬の蹄にはうまくフィットしない場合が多いのではないかと思います。今回使用したスーパーファスト等の蹄充填剤は、型さえ取れば自分の好きな形に成形でき、かつ、蹄への接着も簡単、加えて軽量なのでどんな蹄の大きさの馬にも応用できるところがメリットだと思います。当場では、この蹄充填剤をクラブフットや腱拘縮、肢軸異常の治療に使用していますが、今回の症例から、屈筋腱過伸展の治療にも使用できることが分かりました。今後も工夫を加えながら、例数を重ねていきたいと考えています。